



～ベビーすまいる～

NEWS

2023年10月

Vol.48

発行：BFH委員会

4階・産科病棟

妊婦・授乳婦に使用可能な薬の一覧を更新しました

前回の改訂以降、名称変更となった薬剤や、昨今の薬剤供給状況を考慮して再度改訂しました。

妊娠中・授乳中；安全性高い薬剤

2010年9月 坂総合病院 薬局
2012年2月 改訂
2013年3月 改訂
2023年9月 改訂

	薬剤名	妊娠中	授乳中	備考
総合感冒薬	葛根湯	○	○	
	ペレックス	○(27週まで)	△	当院では28週以降は出さない
鼻水	小青竜湯	○	○	
アレルギー	フェキソフェナジン(アレグラ)	○	○	
	レボセチリジン(サイザル)	○	△	
咽頭痛	桔梗湯	○	○	
	トランサミン	○	○	
咳	麦門冬湯	○	○	空咳に
	清肺湯	○	○	痰がらみ咳に
	アストミン	○	○	
	フスコデ	○	△×	類似化合物(コデイン)で乳児にモルヒネ中毒の報告



フスコデを授乳で△×とした背景として、新型コロナウイルス流行や鎮咳薬欠品で他に処方する薬がないという場合が出てきたので×から変更しました。もともと×にしていた理由は、コデインからモルヒネへの代謝が早いタイプの遺伝子型の日本人が少ないながらもいらっしゃるためです。他国において代謝が早いタイプの遺伝子型の女性から授乳を受けた乳児がモルヒネ中毒になり死亡したという報告があり、アストミン等と同じ位置づけでの処方は避けた方が良いと考え×にしていました。

授乳婦への具体的な処方案は次のとおりです。常用量で原則3日分までの処方日数とし、4日以上は連続服用しないようご注意ください。3日以内であっても、乳児の傾眠や哺乳不良が見られた場合は内服中止をご検討ください。

※一覧はBFH委員会のフォルダに保存しております。

Zフォルダ⇒各種委員会⇒BFH推進委員会⇒妊娠中・授乳中；安全性高い薬剤

